

第1回 言社研レクチャー / Gensha Lecture

国松孝二が旅した本の世界

国松文庫の整理を終えて



日時 | 2016年12月2日（金） 15:00～18:00

会場 | 一橋大学 国際研究館3階 大会議室

主催 | 一橋大学大学院言語社会研究科

「国松蔵書から国松文庫へ 国立にたどりつくまでの道のり」
東京大学名誉教授 柴田翔氏

「国松文庫の概括的紹介」
一橋大学名誉教授 新井皓士氏

「父をめぐる回想：思いつくままに」
桃山学院大学教授 国松夏紀氏

国松孝二先生の略歴

1906年11月3日、現在の千葉県船橋市に生まれる。1930年東京帝国大学文学部獨逸文学講座卒業。旧制武蔵高等学校、九州帝国大学、新制の東京大学、立教大学などで教鞭を執る。東京大学名誉教授。『三省堂独和新辞典』（1963年、1981年）の共同監修、小学館の『独和大辞典』（1985年、1998年）の編集長を務める。ゲーテ、ヘッセ、シュトルム、シュヴァイツァーなどの翻訳を多数手掛け、ドイツ文学の紹介に努めた。エッセイなどの著書に『人間 人生 懐疑 わが箴言』（白水社、1974年）、『浮塵抄』（同学社、1988年）などがある。

また、ドイツ語の古書を中心とした蒐書家として知られていた。「新着洋書に蔵書印を押し、それを陽の光に晒すのが一番の楽しみ」だったようである。「家屋としては、決して狭くはない継ぎ足し継ぎ足しの二階家。台所とか風呂場、玄関・廊下を別にして、階下に八畳間4、六畳間1、階上に六畳間2。これらが最終的には書籍でほぼ満杯になりました。」とご子息は回想している。白寿のお祝いを経て、2006年5月8日、東京都新宿区榎町にて99歳で永眠。

1913年生まれのドイツ文学者で当時は九州大学教授であった高橋義孝氏は、国松孝二先生の学者としての姿について、次のように語っている。「講義をしようがためではない、集めた知識をなんらかの形で利用しようがためではない、本を書こうがためではない。一切の「ため」を抜きにしての読書と知識蒐集、そういういわば無償の情熱ともいうべきものが、国松さんを駆って人生の日々を送らせているのである」（『日本読書新聞』、1957年4月29日）。

国松文庫の紹介

国松孝二先生が集めた蔵書はタイトルにして12,000点を超え、総数は25,000冊に及ぶ膨大なものであった。コレクションは現在のデジタル化の波に逆らうように、「グーテンベルクの銀河系」の時代をそのまま体現している。

2002年1月、東京大学教授の柴田翔氏（現在は東京大学名誉教授）の仲介により、国松先生の全蔵書が一橋大学大学院言語社会研究科に一括して寄贈されることが内諾され、当時の一橋大学学長である石弘光氏などの承認を得て、受領の準備を始めた。具体的には、運搬の費用を捻出するとともに、国際研究館に電動式書架を2機増設した。同年8月に搬入を行い、言語資料室で架蔵の作業に着手した。蔵書の名称は「国松文庫」とされた。以後、十数年に及ぶ資料整理の作業を継続し、2016年3月に暫定的な整理が終了した。

国松文庫の具体的な内容は、ゲルマニスティック諸領域を中心に、中世南欧史、ニーチェを中心とする仏独哲学に加えて、美術、社会、文化史など多岐に亘っている。そこには、もはや入手不可能と目されるものも多々含まれる。

今回の展示では、ドイツ語発展史をもふまえて、中世歌謡、近代聖書、19世紀を生きた哲学者ニーチェに関連するもののなかから、代表的なものを一部披露する。なお、国松文庫は特殊資料の扱いとなっており、貸出は行っていない。

解説 (3 点)

1-1. 『マネッセ篇、13 世紀シュワーベン詩集紹介』

*Proben der Alten Schwäbischen Poesie des Dreyzehnten Jahrhunderts –
Aus der Manesischen Sammlung*

出版社 Heidegger (チューリッヒ)

刊行年 1748 年

本居宣長などによる国学の興隆が日本で認められた時代とほぼ同じくして、近代ドイツにおいて、中世文学・語学の研究を進展させるきっかけをなした著作の一つに数えられる。フランス王立図書館が所蔵していた「マネッセ」本を苦心の末、借り出し、その一部の写本を作るとともに、中世詩人の略歴や中世ドイツ語入門手引きとでもいうべきものを付して活字化したもの。国松孝二先生はエッセイ集『浮塵抄』を 1988 年に出版された後、この貴重書を購入したのだろう。本書は日本のみならず、ヨーロッパにおいても一般的に入手するのは困難と考えられる。「国松文庫」中の白眉とみなしたい。

2-1. 『ルター訳旧約新約聖書、G・ドレ挿絵』

Die Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments

verdeutsch von D. Martin Luther: illustriert von Gustav Doré

出版社 Deutsche Verlags-Anstalt (シュトゥットガルト)

刊行年 不詳

2-2. 『共同訳旧約・新約黄金世紀聖書』

Die goldene Jahrhundert Bibel. Vollständige Ausgabe des

Alten und Neuen Testaments in der Einheitsübersetzung

出版社 Besler (シュトゥットガルト)

刊行年 1997 年

『グーテンベルク聖書』印刷をうけて、製紙および活版印刷の時代を最大限に演出したともいえるルター訳聖書は、識字率や大衆の学習意欲を無意識裏に活性化した一面をもつ。ドイツ語史上では南北地域差の甚だしかった中世ドイツ語から、やがて統一ドイツ語が生成される礎を築いたともいえるが、キリスト教世界ではなお、典礼における羅語を重んじるカトリック地域とプロテスタント地位では微妙な差異があった。

20 世紀後半の新旧両教合同の統一ドイツ語聖書翻訳形成は、その意味では重要な共同作業というべく、展示にはその成果、及び関連して、ゴート語聖書、古高ドイツ語聖書、フランス人ギュスターヴ・ドレの挿絵が入ったルター聖書、レンブラントによる聖書挿絵本などを披露している。なお、これらは専ら『ヨハネ福音書』19 章の「エック・ホモ」のくだりを開示しているが、これは次のテーマ「ニーチェ」とも関連している。

出品リスト 「国松孝二が旅した本の世界——国松文庫の整理を終えて」

番号	書誌情報：書名（和） 書名（独） 出版社（出版地） 刊行年 サイズ
1-1.	『マネッセ篇、13世紀シュワーベン詩集紹介』 <i>Proben der Alten Schwäbischen Poesie des Dreyzehnten Jahrhunderts -Aus der Maneißischen Sammlung</i> Heidegger（チューリッヒ） 1748年 19 x 12 cm
1-2.	『大ハイデルベルク中世歌謡集』（ファクシミリ版） <i>Codex Manesse</i> Insel（フランクフルト） 1975年 39 x 28 cm
1-3.	ウォルフラム・フォン・エッシェンバッハ、『パルツィファル』 Wolfram von Eschenbach <i>Parzival</i> G. Reimer（ベルリン） 1879年 24.6 x 16 cm
1-4.	『ハーゲン版ニーベルンゲンの歌』 <i>Der Nibelungen Lied</i> J. Max（ブレスラウ） 1820年 18 x 12 cm
2-1.	『ルター訳旧約新約聖書、G・ドレ挿絵』 <i>Die Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments verdeutscht von D. Martin Luther: illustriert von Gustav Doré</i> Deutsche Verlags-Anstalt（シュトゥットガルト） 不詳 42 x 32.5 cm
2-2.	『共同訳旧約・新約黄金世紀聖書』 <i>Die goldene Jahrhundert Bibel. Vollständige Ausgabe des Alten und Neuen Testaments in der Einheitsübersetzung</i> Besler（シュトゥットガルト） 1997年 36 x 26 cm
2-3.	『グリム兄弟による散文訳「エッダ」』 <i>Lieder der Alten Edda</i> Insel（ライプツイッヒ） 不詳 18.5 x 12.2 cm
2-4.	『オトフリートによる古高独語訳福音書』（2巻本） Otfrids von Weissenburg: Evangelienbuch J.C.B. Mohr（チュービンゲン） 1884年 21.2 x 14 cm
2-5.	『ウルフィラ訳ゴート語聖書』 <i>Ulfilas Gothiche Bibelübersetzung</i> Weißfels（ライプツイッヒ） 1805年 24 x 21 cm
3-1.	「3. いかにして私ばかりも賢明なるか」『この人をみよ』（ファクシミリ版） <i>3. Warum ich so weise bin. Ecce Homo: Faksimileausgabe des Druckmanuscripts</i> Edition Leipzig（ライプツイッヒ） 1985年
3-2.	『コジマ・ワグナーへの手紙：書かれざる書のための五つの序文』 <i>Briefe an Cosima Wagner: Fünf Vorreden zu fünf ungeschriebenen Büchern</i> W. Keiper（ベルリン） 1943年 25.8 x 18 cm
3-3.	《フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェの肖像》 Friedrich Wilhelm Nietzsche
3-4.	国松孝二 編集 『独和大辞典』 小学館 1985年
参考	『レンブラント：聖書を題材とした素描と銅版画』 <i>Die Rembrandt-Bibel</i> Hänsler（ノイハウゼン＝シュトゥットガルト） 1982年 37.4 x 27.7 cm

監修 新井皓士（一橋大学名誉教授） 小泉順也（言語社会研究科准教授）
 執筆 新井皓士
 協力 高野詩織（言語社会研究科博士後期課程、リサーチ・アシスタント）
 宮本康雄（言語社会研究科博士後期課程、リサーチ・アシスタント）